

日本の漁獲量 ランキング

出典：農林水産省「平成28年漁業・養殖業生産統計」

ニッポンの 漁!

特集1

四方を海に囲まれ、豊かな水産資源に恵まれている日本。
この特集では、さまざまな漁法の紹介を通して、
知られざるニッポンの漁の世界をひもときます。

取材・文／梅澤聡、加藤恭子
イラスト／山中正太

1位
サバ類
50万3千トン

2位
マイワシ
37万8千トン

3位
カツオ
22万8千トン

4位
ホタテガイ
21万4千トン

5位
カタクチイワシ
17万1千トン

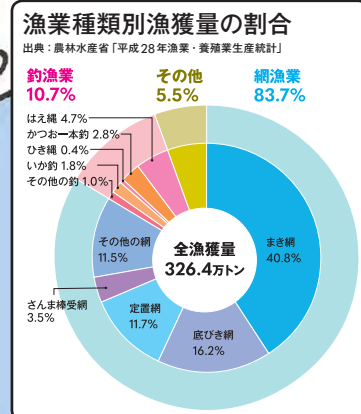
6位
スケトウダラ
13万4千トン

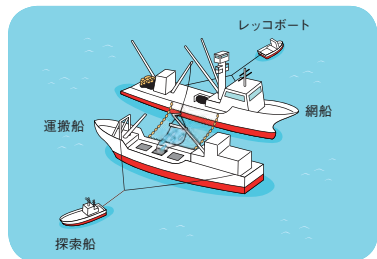
7位
マアジ
12万5千トン

8位
サンマ
11万4千トン

9位
ブリ類
10万7千トン

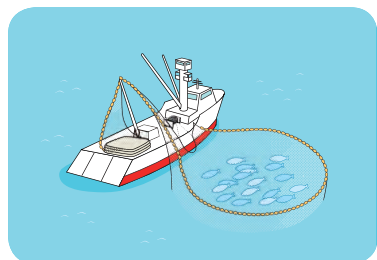
10位
ウルメイワシ
9万8千トン





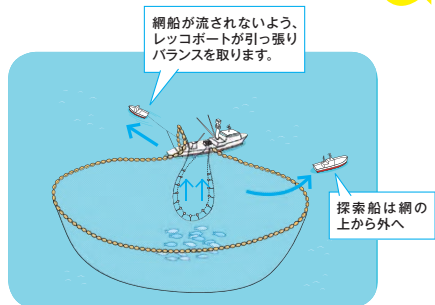
STEP 6 魚を船に取り込む

運搬船に網を取り付けて、三角網（モッコ網、アグリ網）やアゼ網などで魚を数十回すくい上げ、氷水とともに船に収容します。運搬船は魚を積んだら水揚げするために港に向かいますが、探索船や網船は漁場にとどまり、次の魚群を探しながら、4～6回、同様に漁を行います。



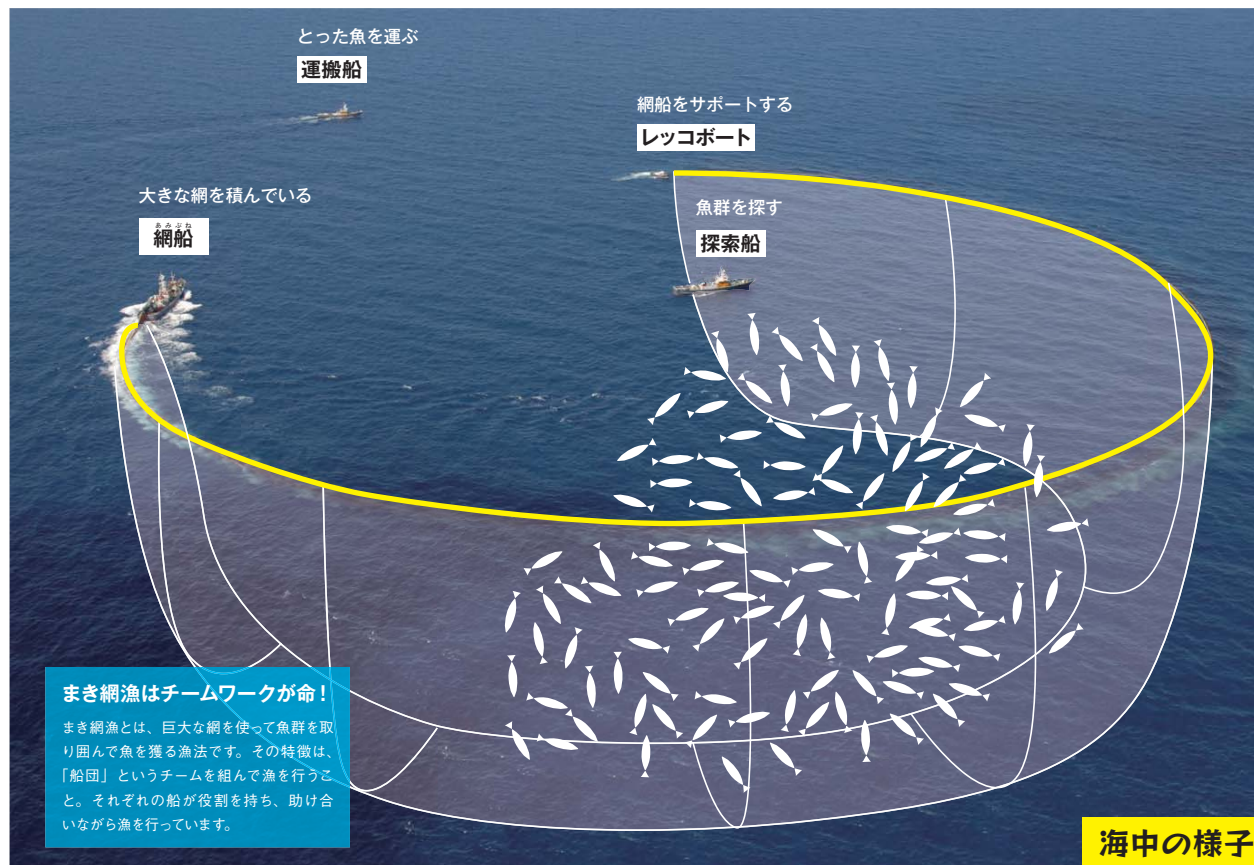
STEP 5 魚を集める

網船が網底を閉め終わると、続いて魚を集めるために網を揚げていきます。網を船にしまいながら魚を寄せ集め、網をザル状にしてすくい上げることで大量に魚を獲ることができます。



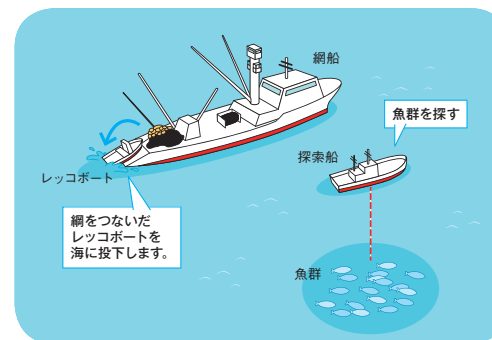
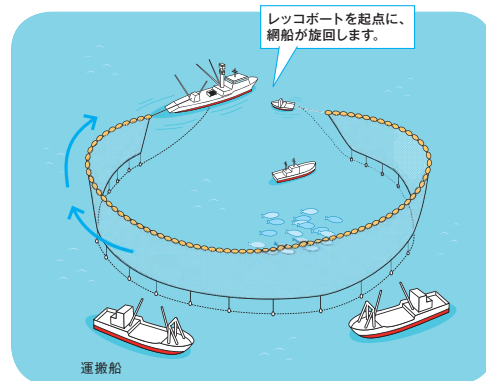
STEP 4 網の底を閉じる

徐々に魚群を囲み込みながら、魚が網より深く潜って逃げないよう、網の裾にあるリングに通したワイヤーを絞り上げて、網底の口を閉じていきます。



STEP 3 魚群を巻き込む

探索船が発見した魚群のまわりを、網船が大きな円を描いて進みながら、カーテンを下ろすように帯状の網を落としていきます。魚群の行動、風向き、風力や潮流などを計算し、魚に逃げられないよう網船とレッコポートが全速力で群れを取り囲んでいきます。



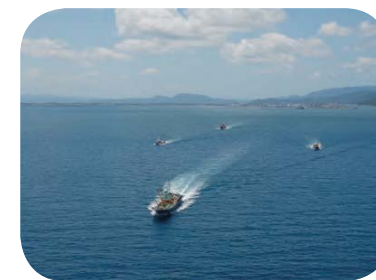
STEP 2 網を入れる

魚群探知機やソナーのようなハイクテク機器や、目視などで魚群を発見すると、投網の準備に入ります。魚種や操業方法によって2そう巻きと1そう巻きがあり、2そう巻きでは全長1000メートル程、1そう巻きでは全長1800メートル以上、深さ200メートル以上にもなる網を用います。

シェア No.1

まき網漁

魚の群れを包み込むように網を入れ、すばやく底をしぼって引き上げる漁。季節や漁場、魚によって規模が異なり、船団というチームを組んで行います。



STEP 1 出港!

魚群を探す探索船、網を積んだ網船、獲った魚を運ぶ運搬船などで構成される船団で出港。アジ、サバ、イワシ魚などは日帰り、カツオ、マグロなどを追ってインド洋や南太平洋などの外洋に出る際は、操業が2～3週間から1か月半に及びます。